

◆はしがき◆

私の書斎の窓から1本の大木が見える。根元からまっすぐに伸びた幹があり、そこから枝が分かれ葉っぱがついている。この大木も初めは苗木であった。長い年月にわたり栄養分をたっぷりと与え、手入れを怠らず育てたからこそ、根や幹はしっかりと強固なものになり、おのずと枝が伸びていき、葉っぱが繁っている。

私は、英語という木においては、根や幹に当たる部分が構文や文法であり、枝や葉っぱに当たる部分がイディオムや語彙であるととらえている。

根や幹に当たる構文や文法は、十分に手間暇をかけ確実に理解しなければ英文を正確に読むことはできないし、英語学習の効率も悪くなる。

他方、イディオムや語彙はいかに効率よく覚えるかは別として、とにかく覚えなければならぬ。現に、皆さんが今目にしているこの「問題集」を何で「問題集」と言うのだろうと考える人は、誰一人としていないだろう。「問題集」と言うから「問題集」なのである。言葉とはこういうものなのである。

日常生活で、私たちが未知の日本語の言葉（単語）に遭遇したらどうしているだろうか。辞書で調べる人、インターネットで調べる人、他人に尋ねる人等々、人それぞれである。いずれにせよ、未知の言葉に遭遇しても解決するのが容易である。これは、母語である日本語の構造や文法が、意識しようとしたまといと、正確に体得されているからである。

そこで、私が受験生に求める英語力のレベルは、「辞書さえあればどんな英文でも理解できる」レベルである。そのためには、力説するが、英語の構造（構文）や文法の学習が必要であり、それを正しく理解することが不可欠である。英語の構造（構文）や文法を、十分時間をかけて咀嚼し消化しなければ、効率が悪い学習法となり、いつまで経っても英語が自分の血となり肉とはならない。

しかしながら、大学入試の英語の試験では辞書を用いることができない大学が圧倒的に多い。イディオムや単語の意味を多く記憶している受験生ほど合格する確率が高く、学ぶ術を知っていても記憶力が強くない受験生

にはハンディを伴うという現状がある。

20年以上にわたり、多数の受験生や先生の支持をいただいてきた『毎年出る 頻出 英語長文』(日栄社)の編集方針と同様に、本問題集では、こうしたことを踏まえ、あくまでも「英語の構造(構文)や文法・語法」という根や幹に当たる部分を詳しく解説しているが、紙面の制約が許す限り語句の説明も心がけた。

『毎年出る 頻出 英語長文』(日栄社)と違って、本問題集は、大学入試センター試験本試験の問題を4課分収録している。収録の意図は、大学入試センター試験の解答方式は、マーク方式であるがゆえに、正解を導く解法のテクニックを身につけてほしいこと、つまり、具体的には「トピックセンテンスを踏まえたパラグラフリーディング」を心がけてほしいこと、「正解は本文に書かれている」ということを体得してほしいからである。解答のテクニックが身につけば、効率的な読み方ができ、読む時間(問題を解く時間)は、確実に短縮される。

また、《Questions 解答》のほかに、《Questions 解説》，150字以内にまとめた《要旨》を収め、受験生の貴重な時間の節約と容易な理解を図った。

なお、英語の単語もすべてニュアンスが異なり、一つたりとて同じ意味の単語はないのだが、大学入試の現状を考えれば、受験生は悠長なことは言ってられない。同意語句、類義語句、反意語句等をまとめて覚えるのが効率的との立場から、多少の無理があっても、類語としてまとめた。

本書と受験生の皆さんとの出会いが実り多いものになって、皆さんこの問題集を読み終えた後に、習得語彙が増えるとともに「辞書さえあればどんな英文でも理解できる」レベルに達していることを、心から願っている。

2011年6月

編 者

◆ 本書の特長と利用法 ◆

本書は大学入試に頻出する重要テーマを集め、高校生・受験生の学力向上を目的とした「毎年出る」シリーズの1冊です。

1. 大学入試に頻出の“テーマ”を中心に、国立大学の問題をword数順に11題、続いてセンター試験の問題4題を収録し、いずれにも語注をつけた。(《Notes》欄の*のついた語注・解説は出題文に添えられていたものであることを表す。)
2. 設問(Questions)は大学入試で出題された内容把握・英文部分和訳・構文・文法・語法・語彙など、あらゆる領域にわたっている。
3. 解答編の《解説》では重要箇所・難解箇所を取り上げ、語句・構文・構造・内容などを詳細に説明した。また特に重要な事項については、記憶が確実になるよう何度も繰り返し述べた。
4. 語彙については、同意語(句)、類義語(句)、反意語(句)などをまとめて覚えるのが効率的との立場から、随所に《類語チェック》を設け、語彙力増強を図った。本文掲載の語句やその他、関連語句を取り上げている。
5. 《Questions 解答》のほかに《Questions 解説》，150字以内にまとめた《要旨》を収め、受験生の皆さんのが貴重な時間の節約と容易な理解を図った。
6. 問題編各課の末尾にあるDouble Check(再確認)欄は、その課の最も重要な箇所、最も難解な箇所に絞って再度取り上げ、かなり踏み込んだ解説をして、皆さんの再確認を促したものである。従来の参考書は、不要と思われる箇所については多くの説明があり、ここは詳しく解説してほしいと思う箇所はサラッとしか書いていないという点を改めるためにあえて挑戦したコラムである。
7. 難しい英文になると、英語を日本語に置き換えただけでは、何を言っているのかわからないものがある。本書では、解説やDouble Checkなどを通じて、その英文が全体として具体的にどういうことを言っているかを解明するように努めた。
8. 本書を利用するにあたっては、まず辞書を使わずに英文を2, 3度読み、できるだけ内容を読み取る努力をし、設問にあたる。記述式の問いは必ずノートに書く。これは入学試験と同じ状況で行う。
9. 次に解答編で答えを確認する。解説をよく読み、辞書や文法書を参照し、正解にいたるプロセスをさぐる。構文・文法・語彙などをチェックして覚える。中には、国語の現代文のように難解な英文もある。いくら訳せても、意味不明な日本語ではダメである。Double Check欄もよく読むこと。
10. 本書を効果的に活用するためには、少なくとも2回読破することをお勧めしたい。2回目にも必ず新しい発見と記憶面でのプラスがあることは疑いない。

◆ 目 次 ◆

1. 【国際】 The deepening of interdependence among nations	8
2. 【生活】 A comparison between reading and viewing television	12
3. 【言語】 The best time to learn a foreign language	17
4. 【物語】 An unbelievable incident	20
5. 【生活】 Teenagers' sleep	23
6. 【科学】 The brain hemispheres	26
7. 【倫理】 The pursuit of happiness	30
8. 【言語】 To become a good speaker	34
9. 【教育】 The education system in Finland	39
10. 【生活】 The effect of sleep and dreams on memory	44
11. 【環境】 A "Lights Down" campaign	48
12-A. 【交友】 The issue of friendship (outline)	52
12-B. 【交友】 The issue of friendship	54
13. 【経済】 Fairtrade	58
14. 【言語】 Your choice of dictionary	61
15-A. 【生物】 The secret of survival (outline)	67
15-B. 【生物】 The secret of survival	71

◆ Double Check 目 次 ◆

1. ①論説文の論理的構成 ②英文に否定語がなくても、日本語は否定の意味	10
2. ①間接疑問 ②倒置文 ③パラグラフリーディング	15
3. ①英語は名詞中心の言葉、日本語は動詞中心の言葉 ②二重否定は肯定の意味	19
4. ①旧情報から新情報へのつながり ②描出（中間）語法	22
5. ①副詞の「同格並置」 ②after / before の英文中の位置	25
6. ①動名詞の働き ②of の用法	28
7. ①関係代名詞のthatと接続詞のthat ②1文の中に動詞が3つ ③It is ~ that の強調構文	32
8. ①日本語の「～まで」に相当する英語 ②代不定詞	37
9. ①挿入は（ ）でくくって考えよ ②as に関する関係代名詞の働きあり	42
10. ①単語はコロケーションで覚えよう ②譲歩	47
11. ①無生物主語 ②副詞節中の省略	51
12. ①同一語句から同意語句 ②the + 比較級 + ~, the + 比較級 + …構文 「～すればするほど、それだけ…」	56
13. ①前後とも共通構文 ②長い主部	60
14. ①英語は「形」と「意味」の両面から ②形容詞と分詞の後置修飾	66
15. ①関係代名詞の what の特長 ②英文の展開の仕方	74

The deepening of interdependence among nations

Since the late 1970s, the world has increasingly become interdependent in several ways. First of all, the amount and speed of economic exchange between different nations has increased dramatically. This has created a global economy where 5 trade and finances are ever expanding. Secondly, technological advances in communication have fundamentally changed the way we interact with the rest of the world. (a) Mutual exchange between different societies and cultures has increased to the extent that we tend to feel as if we were living in one global village. Finally, the progress in transportation has enabled more and more people to visit other countries and regions. For many living in developed nations, traveling abroad is no longer a luxury to enjoy.

It is important to note that the deepening of interdependence 15 among nations has created not only common values and interests but also common problems. Today, many problems do not respect national borders. Against this background, a new term has been made: *Global Issues*. Indeed, when viewed more broadly, the term Global Issues is more than just a catchphrase, but a shift in 20 *perspective.

Basically, there are two different views on Global Issues. *Optimists tend to believe that we will overcome the current problems with future progress in science and technology, coupled with increased international cooperation among countries. 25 Thus, for them there is (b) hope for our future. On the other hand, for *pessimists, the picture looks very different. Such issues as global warming, food shortages, and natural disasters have forced pessimists to argue that (c) if it were not for

fundamental shifts in our way of thinking, the fate of our planet would be quite dark. In contrast to the optimists' view, pessimists 30 believe that global issues are so serious that we must fundamentally change our current lifestyle.

It is up to each person to decide his / her perspective of Global Issues. But, from the historical point of view, one thing I can assure you is that the rising attention to Global Issues represents 35 (d) a paradox. The existence of Global Issues itself requires a fundamental change in a traditional perspective. On the other hand, we cannot solve these issues without looking back on our past experience. The term Global Issues seems to indicate the importance of rediscovering the valuable lessons of the past in 40 order to cope with these newly emerging problems. If we do this, the future of our planet, and indeed all our fellow inhabitants, will be secured.

出題校 | 福島大学

Notes | 2. interdependent 「相互依存の」 5. expanding 「拡大する」 20. *perspective
「考え方、見方」 22. *optimist 「楽観主義者」 22. current 「現在の」
26. *pessimist 「悲観主義者」

Questions

- ① 70年代以降の世界の相互依存を生み出した3つの要因を、それぞれ順に10～20字で簡潔に日本語で書きなさい。
- ② 下線部(a), (c)を日本語に訳しなさい。
- ③ 下線部(b)hope for our futureとはどのようなことを指していますか。具体的に日本語で述べなさい。
- ④ 著者はどのようなことを下線部(d)a paradoxであると述べていますか。具体的に日本語で説明しなさい。

◆ Double Check 1 ◆

① 論説文の論理的構成

論説文に属するこの文は、筋道の立った論理的な構成からできているので、とても理解しやすい。まず冒頭のトピックセンテンス Since the late 1970s, the world has increasingly become interdependent in several ways. 「1970年代後半以来、世界はいくつかの点で、ますます相互依存するようになっている。」の in several ways という記述から、読者は世界が相互依存するようになった「いくつかの点で」の具体例はどういうことだろうか、と期待して読み進めることになる。in several ways は、この後に述べられるであろう具体例や理由などを示す詳細な記述 (details) をコントロールするための語句なので、コントロールリングアイディア (controlling idea) と呼ばれる。

すると、① First of all, the amount and speed of economic exchange between different nations has increased dramatically. 「まず第一に、さまざまな国同士の経済交流の量とスピードが劇的に増大してきている。」とあり、次いで、② Secondly, technological advances in communication have fundamentally changed the way we interact with the rest of the world. 「第二に、通信の技術的進歩が、私たちが世界の他の地域と交信する方法を根本的に変えてしまっている。」と述べられ、締めくくりとして、③ Finally, the progress in transportation has enabled more and more people to visit other countries and regions. 「最後に、交通機関の進歩で、ますます多くの人々が他の国々や地域を訪れることができるようになっている。」と論じられている。

以上のことから、in several ways の「いくつか」とは、①経済交流 ②通信 ③交通機関を指すことが理解でき、これらの点で世界が相互依存するようになってきたと読解できる。

第3段落の論旨の展開も明解である。two different views on Global Issues 「グローバルな問題に関する2つの異なった見解」の直後の文は Optimists 「楽観主義者たち」で始まり、段落後半には、On the other hand, for pessimists ~ 「他方、悲観主義者にとっては~」と論じられている。この段落では、「グローバルな問題に関する楽観主義者と悲観主義者の2つの異なった見解」が対照的に見事に描かれている。

なお、上記 first of all, secondly, finally, on the other hand はディスコースマーク (Discourse Marker) といわれるもので、英文の展開パターンを見分ける目印になるものである。とりわけ論説文では、ディスコースマークを手がかりに英文を読解していくことがとても重要である。

② 英文に否定語がなくても、日本語は否定の意味

the term Global Issues is more than just a catchphrase, but a shift in perspective. 「グローバルな問題という用語は、ただのキャッチフレーズではなく、物の見方の変化なのである。」

more than は「～以上の」という意味だが、「単なるキャッチフレーズ以上のものである」と訳出するよりは、思い切って「ただのキャッチフレーズではなく、物の見方の変化なのである。」

い」と訳出する方が日本語としてわかりやすい。そのように否定的に訳することで、その後の but とも相関して not ~ but ... 「～ではなくて…」のようなリズムのいい文になる。

She got more money than she could spend. 「彼女は使うことができる以上のお金を手に入れた。」 → 「彼女は使い切れないほどのお金を手に入れた。」

英文に否定語がなくても、日本語が否定の意味になるのは、than の他に before が含まれる文でも見られる。

It's better for you to start before it begins to rain. 「雨が降り始める前に出発する方がいい」 → 「雨が降り始めないうちに出発する方がいい」